

公民館と住民のアシスト講座(第4回)

事例研究「私のオススメ事業」

平成27年1月29日(木) 青森県総合社会教育センター 第1研修室

平成27年1月29日(木)に「公民館と住民のアシスト講座」第4回を実施しました。この講座は、県内6公民館から「私のオススメ事業」というテーマで、特色ある事業を紹介していただいたものです。ここでは、それぞれの事業の概要とポイント等をご紹介します。

①青森市中央市民センター 主事 戒 未来 氏 「キッズタウン “ワラッシ”」

◆ワラッシとは？

職業体験を通じ、働くことへの理解を深め、社会の仕組みを学ぶ目的で実施しているイベントです。職業を体験すると模擬通貨「ネブータ」で報酬がもらえ、それを使い、買い物や飲食を楽しむことができます。26年度は、近隣の児童約110人が参加し、実際に警察官やパティシエなどの仕事を体験しました。

◆事業がうまくいっているポイント

- ・センターまつり実行委員会からの寄付金が資金源となっており、職業体験の講師は全てボランティア、抽選会の景品は職員からの寄付等、低予算で実施できるよう工夫しています。
- ・子どもたちから「楽しい」「またやってほしい」、保護者からは「近隣を対象とした募集なので、参加しやすい」という声が多く寄せられています。

◆実施によるメリット

- ・子どもたちにとって、センターが集う場所となり、他の事業にも関心を持ってもらえます。
- ・「ワラッシ」への関心が高まり、ボランティアとして参加したいという声が出てきました。

◆まとめ

子どもたちの「また、やって～♪」が最大のご褒美です！職員と相談しながら、「やってみたいことはやってみる♪」という気持ちが大切だと思います。

②五所川原市立中央公民館 社会教育係長 成田 昭 氏 「昔ばなし語り部養成講座」

◆語り部養成講座とは？

津軽に残る昔ばなしを継承するため、語り部の人材を育てるとともに資質の向上に努め、幼稚園、小学校、福祉施設等で活動を行い、地域の振興・福祉・教育に寄与することを目的として実施しています。

◆事業がうまくいっているポイント

昔ばなし語り部人財育成実行委員会のメンバーが、元々あった「むがしっこ語るべ会ゆきん子」を主体に、社会福祉協議会、観光協会等様々な所属のメンバーで構成されており、それぞれの立場から助言・要望を直接伝えることができます。

◆実施によるメリット

日本で最も美しい方言である津軽弁を見直し、昔ばなしから学ぶ親子の絆や助け合いの精神を後世に伝えていくことができます。

◆まとめ

先人たちが、後世に伝えていくべきことを巧みに盛り込んで作りあげた物語である昔ばなしは、口承によるものが多く、それゆえ消滅の危機に瀕してきたのだと思われます。そこで、公民館が一緒になって文化の伝承をするということで、語り部の意識が高まるともに、確実に後世に残せるものと信じています。

今後は津軽地区で活動している団体の合同研修等を通して、語り部の輪を広げていきたいです。

③弘前市立東部公民館 館長 工藤 周三 氏 「東部地区文化祭」

◆東部地区の文化祭とは？

10月初旬から11月中旬の1ヶ月半を文化祭の期間として、様々な催し物が開かれます。実施部門は子どもの祭典、音楽を楽しむ会など13部門あり、実行委員は総勢140人となります。公民館職員は、プログラム作成や各会議の案内、参加賞の調達等の役割をしています。

◆事業がうまくいっているポイント

東部地区社会教育活動協力が、文化祭の実施にあたり積極的な支援してくれています。

◆実施によるメリット

- ・共通体験により、地域住民やクラブ員の連帯感が強まります。
- ・実行委員の数が多いため、会議も盛り上がりやすい。 ・東部公民館、社会教育のアピールの場になります。
- ・小中学生も参加できる場面が多いため、世代間交流になります。
- ・参加、出場、出品の場で活躍できることから、やりがいや生きがいを感じることができます。

◆まとめ

公民館職員としては、地域住民との関わりを強め、責任感・成就感を得つつ、共に連携して活動していきたいと思っています。

④黒石市立上十川公民館 主任事務員 村岡 剛 氏

「上十川獅子踊子供組」

◆獅子踊子供組とは？

上十川地区に古くから伝わる獅子踊りは、保存会の人たちにより受け継がれてきましたが、児童による獅子踊りは一時期休止状態でした。この地域の郷土芸能を後世に伝えることを目的に、平成21年から本格的に活動を再開しているものです。

◆事業がうまくいっているポイント

- ・毎年、講習を行う必要があり、保存団体や地域団体の育成活動が継続される環境にあります。
- ・地域でも出演機会を創ることで、保存継承意識が継続されています。
- ・大人の演舞機会にも、一緒に出演しています。

◆実施によるメリット

- ・子どもが関係する全ての団体のネットワークが構築され、地域団体と教育機関が強く結びつき、あらゆる事業で連携がとれ、子供を育む環境が整ってきます。
- ・若手の伝統芸能関係者が増えて、活躍する機会が構築されます。

◆まとめ

地域と学校は、獅子踊子供組を介してより強い絆で結ばれ、地域全体が、多様な面でのネットワークで構築されています。

⑤三沢市立中央公民館 事務長 田嶋 義道 氏

「手弁当学び講座」

◆手弁当学び講座とは？

地域の中で「自らの知識や特技を生かして地域に貢献したい」と考える人々に、講座開設に向けたサポートをしながら、多様な学びの機会を提供し、公民館の利用促進・活性化を図っているものです。

◆事業がうまくいっているポイント

ほとんどの講座は開始当初参加者が2～3名程度であるが、参加者が参加者を連れてくる形で増え、講師のやりがいにも繋がっています。

◆実施によるメリット

- ・講座を通じて、講師と受講生、受講生同士の交流ができます。
- ・個人で動くには困難が多く、躊躇してしまう人を発掘できます。
- ・住民の生涯学習を支援する人材を把握することができます。

◆まとめ

私たちが大切にしているのは、どんな小さな特技でも「教えてみたい」と思う人を大切に、形にしてあげることです。

今後も、講師そして受講者の皆さんがワイワイと楽しみながら学び合う講座、小回りの利く講座を地域住民のアシストを受けて形にしていけたらと思います。

⑥八戸市立大館公民館 館長 高橋 芳久 氏 「新田城まつり」

◆新田城まつりとは？

今から約380年前、その頃新田城城主であった新田義実が、南部藩藩主南部利直の命により、遠野領へ国替えとなった際、当時の出立行列を再現する祭りです。地域の歴史を知る、ふるさとへの誇りや愛着を育む、新井田地区の活性化を目指すこと等をねらいとして、平成17年から始まった新しい地域行事です。

◆事業がうまくいっているポイント

公民館長が新田城まつりの事務局長をすることで、住民や各団体との連絡調整が円滑に進んでいます。

◆実施によるメリット

- ・住民それぞれの地域への関心が高まり、ふるさと意識が高まります。
- ・小中学校、地域諸団体、企業等が関わることで、一体感が生まれ、つながりが形成されます。

◆まとめ

大館自治振興会の、村おこしのための小さな夢から始まった「新田城まつり」は、今年で10回目を迎えました。手づくりの小さなまつりでしたが、今年は、総勢800名を超える方々が関わる、地域を挙げての一大イベントとなりました。このまつりが、新井田地区の皆さんの心の支えとなるよう成長させていきたいです。

◆コーディネーター松本先生（弘前大学教育学部講師）による講評

今回事例発表した6公民館は、地域の資源（人、団体）を発掘し、育て、つなぎ、活用しています。普段から地域と公民館が結びついているため、これらの事業の成功は、始めから約束されていたと思います。是非参考にしてほしいです。ネットワークを広げるためにも、直接交流しながら真似てみましょう。

今回の事例発表を聞いて、青森県の公民館の底力・可能性を感じることができました。自信を持って、前向きに取り組んでほしいと思います。公民館と住民が共に学び合い、お互いに成長できる関係性を作ることが重要ですね。

